
派手な4人の普通の七夕

雨雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

派手な4人の普通の七夕

【Nコード】

N3969M

【作者名】

雨雨

【あらすじ】

見た目は派手だけど、中身は普通の大学生4人のとある七夕。

（前書き）

殺伐とした小説を書いているので、ちょっとほのぼのが書きたくなりました。（ほのぼのとしてるよね：）

「ハルちゃん!!」

願い事、ちゃんと書いたあ??」

間延びした発音と甲高い声、そしてこのクソ蒸し暑い中なのに抱きついてくることへの多少の面倒臭さを覚えながらも、声の主を見るハル。

声の主は、ピンクのレースとリボンの塊のような服を着た髪型縦ロールの女。

暑苦しい。

御歳19。

あと5年もすれば、イタイ女として後ろ指を指されるだろう。
いや、童顔だから10年を要するかもしれん。

「リュウ。うるさい。トーン押さえろ」

がつちりと、その縦ロールの髪が崩れようと、構わず、ハルはアイアンクローを見舞った。

「あゝん、冷たあい。

でもそんなところもス・テ・キw」

思わず指にぐっと力が入る。

「ああああ、リュウのコメカミが青くなってきたから!!!!
なんかその色ヤバいから!!!!
その辺でやめたげて!!!!」

慌ててユウスケが止めに入る。

両耳に4個ずつどころか、片眉にもピアスを開けた、金髪パンク野郎だ。

ド に違いないとハルは思っている。

とあるバンドのドラマーらしい。

ハルは彼のライブを見に行ったことはまだない。

それにしても、こいつの黒づくめな格好も暑苦しい。

「ハル、できたんなら笹につけちゃって。リュウも」

騒ぎなどなんのその。

マイペースなメガネ王子。

あだ名はナギという。

派手な顔はそこらのアイドルなど目ではなく、当然モテるけれども無愛想なため、彼を好きな女子は電信柱の陰から見守るタイプの女子が圧倒的だ。

ハル達の通う大学には彼の隠れファンクラブがあるとかないとかいう噂。

たぶん本当だ。

ユウスケの制止は無視し、ついでにリュウの生死も無視し、とどめに更に指に力を込めてからハルはリュウを手放し、皆で用意した笹に自分の短冊をとりつける。

「まってまって、私のも付けるう」

ゾンビ並みの復活力で再生したリュウが十数枚もの短冊を持って駆け寄る。

「おつま…。ボンノーありすぎじゃね?？」

リュウの短冊の量にユウスケが呆れる。

「どれが叶うか分かんないんだから、たくさん書いたの!!
ユウちゃんだって、変わんないじゃん」

ユウスケの手にも、リュウほどではないが、十枚ほどはありそうな短冊。

「数打ちや当たる方式かよ…」

「本人満足ならいいんじゃない?」

ハルとナギはそんな会話をしながら、すでに短冊をつけ終わり、他の飾りを黙々とつけている。

なんだかんだと騒ぎながら、笹には短冊と七夕飾りがつけられ、それなりに綺麗だ。

「これで曇ってなけりゃあ、もっと雰囲気出たのになあ」

残念そうにユウスケが言う。

「なんか、七夕って毎年曇ってて、天の川を見たためしがない気が

するなあ」

ハルは夜空を見るが、残念ながら、今年も天の川を見ることはできなかった。

大学の屋上。

笹を飾り付けて、天の川を見ながら酒盛り。
残念ながら、天の川は見れなかったけれど。
ベタだけど、それなりに楽しい。

今しかできないことだろうなあ。
ぬるくなつたビールはひどく苦いとハルは思った。

- - -
- - -
- - -

おまけ 4人の願い事およびコメント

ナギ：無病息災。

ユウスケ「渋い…っか、爺クセえ」

リュウ「ナギちゃん、風邪ひいたことないって言ってなかった?？」

ハル「要するに、現状維持ってことだろ」

ナギ「健康は大事だよ」

リュウ：ハルちゃんとずっと仲良くw ハルちゃんと二人きりでデ
ートw ハルちゃんと観覧車に乗るw ハルちゃんと…ETC・
ハル関係が以下も続く）

ハル「うざい」

ユウスケ「ここまで来ると変態だな」

ナギ「他のことはないの？」

リュウ「私、ハルちゃん命だから　っていつか、ユウちゃんなんて
こと言うのお！！」

ユウスケ：目指せバンドのメジャーデビュー！！　金を貯めて車を
買う！！！！　E T C .

ナギ「これ、願い事っていうより目標だよな」

ハル「一番の願い事は見られたくないから、カモフラージュだろ」

リュウ「？　あつ、こら、ユウちゃん！！今隠した短冊も公表しな
よ！！私だつて全部見せたんだから」

ユウスケ「気のせいだ。ちゃんと全部公表した（リュウと両想いに
なれますように！！）」

ハル：運命の出会いがほしい

リュウ・ユウスケ「：マサミさんがいるのに？」

ナギ「マサミさんには内緒にしなきゃね」

リュウ・ユウスケ「：そうじゃないと後が怖い」

ハル「なんで??」

（後書き）

いつか書きたい小説の登場人物たちで短編書いてみました。
大学生4人グループの青春（？）モノかなあ？？

紅い瞳が一段落したら、少しずつ書いていきたいなあ、と思って
います。

ちなみに、マサミさん＝ハルの恋人です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3969m/>

派手な4人の普通の七夕

2010年10月28日08時21分発行